

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500521		
法人名	有限会社 暮らしの里		
事業所名	グループホーム暮らしの里		
所在地	千葉県千葉市緑区大膳野町4-141		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して生活できるように、コミュニケーションを大切に、信頼関係が築けるよう努め、穏やかな日々を送る事が出来るように努めています。午前中は日付の確認、今日は何の日、今日のニュースを題材にして話を展開したり、午後はレク活動に力を入れ活気あふれる日常を提供しています。コロナウイルスなどの感染症の影響で散歩等外出を自粛している為、運動不足を解消するようリズムカルな曲に合わせてフロア内を歩いて頂いています。利用者様がここに来て良かったと思って頂ける様、色々と工夫をした行事を企画しています。季節を感じる食事やビデオ鑑賞、又、職員のピアノやギター演奏に合わせて歌を歌ったりと、日々新鮮な気持ちでいられるよう努めています。そのためにも、スタッフ間での情報共有も大切にし、気付いた事や意見を発言しやすい職場環境であることにも尽力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な生活を送るとともに、必要な安全基準を明確化し、安心して穏やかに過ごせるようなケアに取り組んでいる。レクリエーションや話題を工夫して、利用者とのコミュニケーションを取るようにしている。また利用者に合わせて個別支援計画に沿って、適切なケアが提供できるよう努めている。コロナウイルス感染症の影響で外出等できない状況であっても、広い庭で利用者に季節を感じてもらえるように工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の個性を尊重しながら、家庭的で穏やかな日々を送る事ができる環境づくりという理念を守るべく、利用者様の個性の把握、それに伴った対応方法を常に検討し、安心して生活できるよう努めます。	職員一人ひとりが、理念及び利用者本位に基づき、毎日が安全と安心の中で穏やかに家庭の中で過ごすような生活を提供できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染症対策として近隣への散歩等は中止しております。	コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況を見ている状況である。	状況を見ながらになると思うが、少しずつでも、利用者が地域と関わる場面を作ることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に、民生委員の方や自治会長の参加があり、ホームでの暮らしや活動をお話しております。又、スライドショーを覗いて頂き日頃の生活を少しでも知って頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、入居者様、民生委員の方、自治会長、あんしんケアセンターの方が毎回参加して下さい、様々な意見やご提案を下さり、参考にさせて頂いております。	運営推進会議は2か月に1回実施している。利用者本人、利用者家族が参加し、民生委員や自治会長、地域包括支援センター職員に意向や要望を表出できる場面にもなり、開かれた事業運営の機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	色々な面(災害時含む)において連絡を取らせていただき、実情報告や情報を得たりしています。(メールでのやり取りも含まれます)	感染症、防災、BCPプランなど、必要なことについての連携を図っている。また、法人代表者が中心になり、行政情報の把握に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年間研修計画に含み、毎月のミーティング時に必ず実施しております。各フロアーの出入口は施錠を行っていますが、玄関と思わず開けてしまっ出てしまう方もおられることをご家族等にも理解して頂いています。	虐待防止チェックシートを活用した職員相互点検や会議、研修を通して身体拘束のないケアの水準を高めている。権利擁護も含めて、利用者本位に生活ができるようにホーム全体で心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を年間研修計画に含み、毎月のミーティング時に必ず実施しております。また、利用者様に対しての言葉遣いやプライバシーを侵害するような言葉も注意するように日頃から話しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている入居者様も増えていきますので、制度についてや役割などを学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族やご本人にホームを見学して頂いておりますが、難しい方には、その方に面会させて頂き、十分な説明と不安な気持ちを聞くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一定条件での面会時に近況報告させて頂いたり、何か変化があった時には、電話連絡にて報告させて頂いております。その中では、一方的にならないように、ご家族の意見やお話も聞くように努めています。	コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況もあり、面会の制限をしている状況もあったが、手紙、電話などで意見等を聞くようにしてきた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に職員からの意見の場を設けています。また、毎朝の申し送りでも些細な気づきでも報告し、その場で検討しています。又、必要に応じてフローごとのミーティングも行い、意見を出して頂いています。	職員との意思疎通を第一に、朝礼、申し送り、フロアミーティング会議などで、意見の把握に努めている。職員の意見を反映する取り組みが良好な人間関係構築、チームビルディングに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度等については、代表者に報告し給料の見直しに反映しています。業務上の取り組みで、良い点または改善点もすぐに話せるようにし、評価に繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれ得意分野を活かした役割を持ってもらい、お互いに感謝の言葉を述べるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居・転居の際、交流を持った同業者の方々とは、情報交換を含め、その後も何かあった時には互いに声かけをし、サービスの質の向上するべく努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では、ご本人からの話を参考に、不安や要望をさぐり、入居当初は関わり合いを多くすることで、安心して過ごせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事とご本人が困っている事とは違う事もあるので、場合によっては、ご本人に聞かれないように電話などで話すなどの配慮を行い、信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か面談のときに検討し、提案させていただいています。また、他のサービス利用に関しては、負担料金等も含めて必ず説明するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にスタッフからの態度や言葉が上から目線にならないように注意しています。世話をする、世話をされるという思いではなく、お互いに出来ないことを補うという気持ちで努めるように話をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からご本人の若い頃の話の聞いたり、写真を見たりどんな父親、母親だったかなどを伺い、ご家族の思いやご本人の生き方を理解するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染症対策等により、面会等については知人や友人の訪問に関しても一定条件があります。	コロナウイルス感染症等の影響もあり、面会等については一定の条件をもって実施している。安全基準を明確化したうえで、馴染みの関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の食事の席でも、一人一人の性格を把握し、争いを回避できるように配慮したり、誕生日などを共に祝うことで、より良い関係を築けるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了し、入院中や他施設に転居された方も、近況報告を報告して下さったり、相談にも応じるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	改めて話を聞くと、緊張されるため、日頃のコミュニケーションや会話を大切に、その中から希望や意向を引き出すようにしています。把握した情報は職員間で共有して活かせるようにしています。	日々の申し送り記録や日常の会話から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から聞いたり、今までの生活歴からの情報をもとに希望に沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後において、ご本人やご家族に話を聞いたりして、生活歴を把握し、会話のきっかけや笑顔の引き出しに繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人のペースを大切にしながら、その方に合った方法で、現状維持ができるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス前に、ご家族やご本人の意向を確認しています。カンファレンス時は、職員の意見も聞きながら現状に即した介護計画を作成するように努めています。	複数の職員が記入するモニタリングチェック表を用いて、介護計画に反映させている。今出来ることを尊重し、現状に合っているかどうか3か月に一度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、行ったことだけを記載するのではなく、いつもと違うこと、話された事、スタッフがいつもと違うと感じた事、気づいた事も記載し、報告するように指導し、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況は、面会時に伝え、変化があるときには電話にて報告し、対応に関しては一方的にならないよう、一緒に考えていくようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策で地域資源等の利用はできていません。町内会からの回覧板での情報のご利用者様にも伝えていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の了解を得て、内科系の往診対応を行っています。他科受診に関しては、ご家族の希望を聞いて、ご家族受診をお願いしています。緊急時は、ホームスタッフで対応しております。	「ご入居中の健康管理体制等について」という文書で、利用者の健康管理方法を示している。かかりつけ医の受診が可能であるが、基本的に家族の協力のもとおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はありません。状態変化に関しては、主治医に報告し指示を得ています。緊急時は救急搬送にて、協力病院等に受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、介護サマリーを記載し、連絡を取って頂きやすいような関係を築いています。入院中は、ご家族に病状を確認し、了解を得たうえで、病院にも連絡し、退院後の生活の注意点も伺ったりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在はターミナルケアは行っていません。入居前の見学時点でそのことはお話し、過去の方々の例をあげ、説明をしています。	入居時に看取りケアをおこなっていないことを丁寧に説明している。食事摂取状態などの変化が見られるようになった時は、協力医の判断のもとで家族等と話し合う時間を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡方法について伝えていきます。特に、注意が必要な方がいる場合は、再度連絡用のノートに記載し、口頭でも必要な事柄は説明し、誰もが対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の他、あらゆる想定の実践の年間計画をたて、実施しています。また、備蓄品等の有効年月日等もチェックしています。	年2回消防訓練、夜間訓練などを実施している。避難訓練終了後は振り返りをして支援体制の整備に取り組んでいる。災害時に備えて必要な物資や食料、水などを3日分備蓄している。	不審者対応や災害時の夜勤者対応など、避難訓練をさらに充実させて、利用者が安全に避難できるよう継続して取り組むことが期待される。また、BCPの職員への周知徹底も必要と思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることをいつも念頭において、尊敬の念を持った態度で接し、特に言葉かけや言葉遣いにも注意を払うように話しています。	一人ひとりの尊厳を大切に声掛けや言葉遣いに努めている。また、プライバシーを大切にすることを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、スタッフが決めてしまわないよう、選択できるような声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活で、助言やアドバイスとして口添えする事はありますが、過ごし方の無理強いはしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった服装になるように、衣類整理を一緒に行ったり、好みの衣類を聞いて要望にお応えできるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの行事にあった食事の提供の他、食べたいもののリクエストを聞いて、それに叶えられるよう提供しています。準備や片付け等ができる方はスタッフと一緒にしています。	利用者に時間を使えるように、普段は冷凍の調理済みの食事であるが、週2回は手作りにしている。また、行事食も取り入れている。利用者は出来る範囲で食事の準備や下膳を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量はその都度チェックして、一日のトータル量を計算しています。体重や健康診断での結果を考慮して、個々の適量を決めて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや促しだけでできる方、自分でできるけどずっと傍についていないとできない方などいますので、統一した介助ができるようにしています。訪問歯科の助言も頂き正しい口腔ケアを実践しています。必要に応じて受診もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の傾向を把握し、個々に合わせて支援しています。また、排便も毎日確認し、丸二日及び丸三日出ないときには、翌朝の朝礼時に名前をあげて指示のある便秘薬の服用をして頂いています。	排泄チェック表を使用し、一人ひとり排泄のパターンを把握したうえでトイレ誘導や見守りにより、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取量と日々の体操や苑内歩行により体を動かすことなども取り入れ、便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と時間帯は決めています。ゆっくりと入浴できるように時間は長めにとっています。また、入浴時間帯に不在だった方は、時間をずらして入れるように配慮しています。入浴がない日には、清拭を行っており清潔に保っています。	週2回入浴日を設け、利用者の状況に合わせて入浴ができるように支援している。入浴をしたくないという場合は、無理強いないで、馴染みの職員が対応するなど安心して入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつもと比べて、疲れた様子や表情などを見て、適宜休息を進めたりしています。寝具もその方々の寝方の特性を見極め、ご家族にご用意していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰しもが服薬状況が確認できるよう薬の保管ロッカーに指示・内容等情報を貼り付けています。又、薬の変更がある場合スタッフに申し送りし、アイパット記録にも変更の旨を記載し、変更後の様子確認も記録に残すようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを活かして頂けるようにレクリエーション等に取り入れています。また、毎月楽しみと思っていただけのような行事の企画も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染症対策等により、外出や散歩はできていません。ただし、天候に応じて敷地内にて日向ぼっこ等は行い気分転換をはかっています。買い物については、代行購入としています。	感染予防のため、まだ、自由に散歩や外出などが出来ていないが、玄関前や施設周りで外気浴をしている。	状況を見ながらにはなると思うが、出来る限り利用者が外出することが出来るような工夫を期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は原則禁止しています。どうしても持ちたい方には自己責任としていただいています。購入したい物がある時は、希望を伺って、買い物代行をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親しい方と電話したい方には、原則的に携帯電話を持っていただいています。また、手紙やはがきのやりとりも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには季節に準じた飾りを行い、また、季節に合わせたちぎり絵も展示しています。生活のスペースは常に清潔であるよう清掃には力を注ぎ、整理整頓にも心掛けています。行事の写真等も掲示しています。	リビングは日当たりも良く気持ちのよい空間となっている。リビング、廊下には、行事の写真や季節の装飾が掲示されている。昼食後はお茶の時間を設け、利用者と職員がゆっくりとした時間が過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様は気の合う方々とソファなどでお話をされています。スタッフが間に入って仲をとったり、一人で過ごされていても孤独にならないよう声掛け等をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活動線にも合わせて、レイアウトを検討しています。殺風景な居室の方は、飾りなどを置いて、落ち着くような空間づくりにも配慮しています。また、馴染みの家具や写真等を持ってきて、ご家族やご本人が配置等を決めています。	居室には、テレビや家族の写真などこれまでの生活で使用していた物を持ち込んでもらい、利用者が安心して生活が出来るよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はシンプルな構造にもなっており、安全に過ごせるよう家具なども検討しながら配置しています。必要な時に貼り紙などしながら、場所をお知らせして迷わないような工夫をしています。		